

長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第22週 2026年5月25日(月)～2026年5月31日(日) 2026年6月4日作成

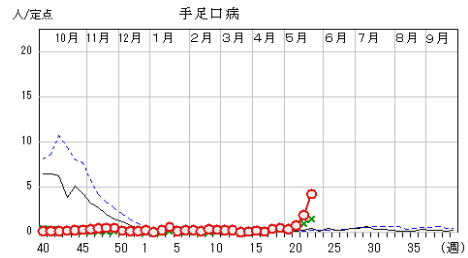
☆定点^{*}報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

(1) 手足口病

第22週の報告数は131人で、前週より73人多く、定点当たりの報告数は4.23であった。

年齢別では、1歳(79人)、2歳(29人)、1歳未満(11人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所(14.75)、長崎市保健所(6.83)、県北保健所(5.00)であった。

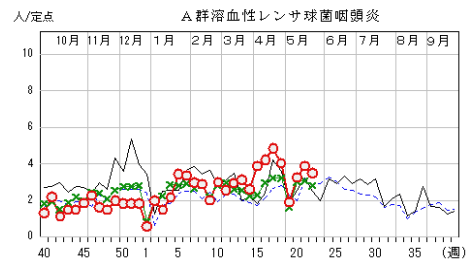


(2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第22週の報告数は108人で、前週より12人少なく、定点当たりの報告数は3.48であった。

年齢別では、10～14歳(22人)、4歳(14人)、5歳(12人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所(9.00)、県南保健所(7.67)、西彼保健所(4.33)であった。

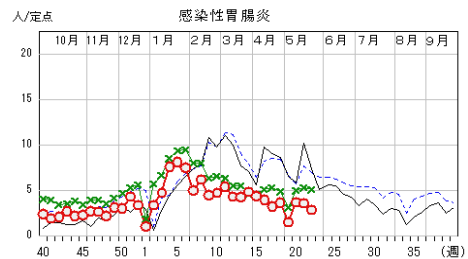


(3) 感染性胃腸炎

第22週の報告数は89人で、前週より22人少なく、定点当たりの報告数は2.87であった。

年齢別では、10～14歳(12人)、1歳(10人)、2歳(9人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所(4.67)、県北保健所(4.50)であった。



○ 当年(長崎県) ー 前年(長崎県)
× 当年(全国) - - 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第22週の報告数は131人で、定点当たり報告数は4.23でした。県全体では3週続けて増加し、前週の2倍以上の報告数となりました。地区別では、佐世保地区(14.75)、長崎地区(6.83)、県北地区(5.00)は他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第22週の報告数は108人で、定点当たりの報告数は3.48でした。地区別では、佐世保地区(9.00)、県南地区(7.67)、西彼地区(4.33)は他の地区より多く、佐世保地区は警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱(高熱)、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第22週の報告数は89人で、定点当たりの報告数は2.87でした。地区別にみると、西彼地区(4.67)、県北地区(4.50)は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

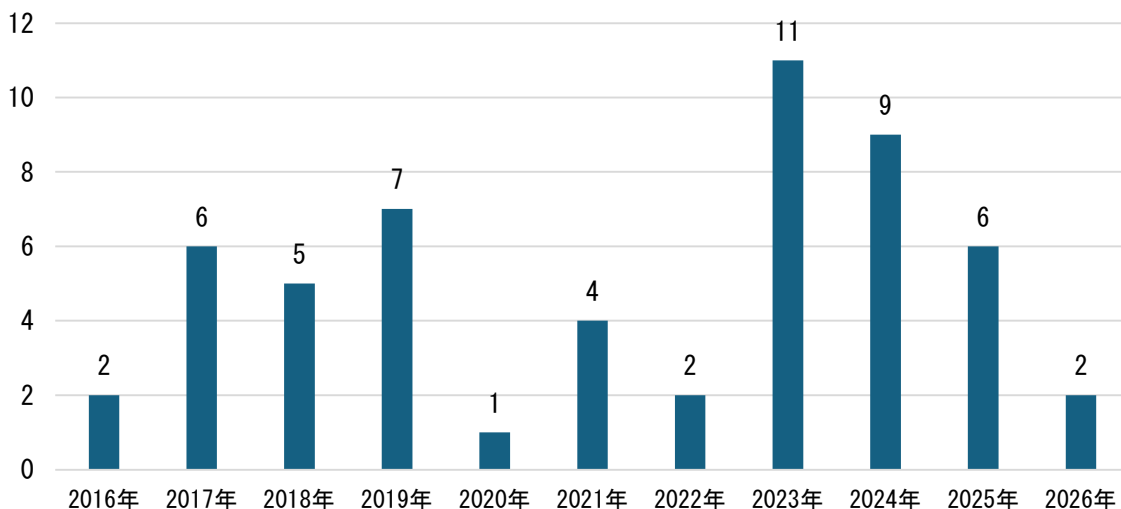
☆トピックス：6月1日～7日は、HIV検査普及週間です

厚生労働省は、平成18年以降、毎年6月1日から6月7日までの1週間を「HIV検査普及週間」と定め、普及啓発イベントを実施しています。

HIV(ヒト免疫不全ウイルス)は、免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球(CD4細胞)という白血球などに感染し、免疫力を低下させていきます。HIVは、性的接触、母子感染、血液を介した感染経路により感染し、適切な治療が施されない場合、後天性免疫不全症候群(acquired immunodeficiency syndrome, AIDS, エイズ)を発症します。近年は治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を開始すれば、免疫力を落とすことなく、通常の生活を送ることが可能となっています。

早期発見、早期治療により発症を防ぐためには、検査を受けることが重要です。県内の保健所において、HIVの個別相談、無料匿名の検査を実施しています。それぞれ事前の連絡、予約が必要となりますので、検査、相談をご希望される場合は、最寄りの保健所にご連絡ください。

(人) 長崎県における後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)報告数



2026年は22週まで

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

県内では、4月以降、SFTS 5件、日本紅斑熱 8件の報告があがっています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021年	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (1)	13 (3)	13 (7)	13 (11)	12 (5)	5
日本紅斑熱	28 (6)	22 (2)	14 (4)	24 (5)	25 (5)	9
つつが虫病	14 (1)	7 (0)	15 (3)	11 (1)	2 (0)	1

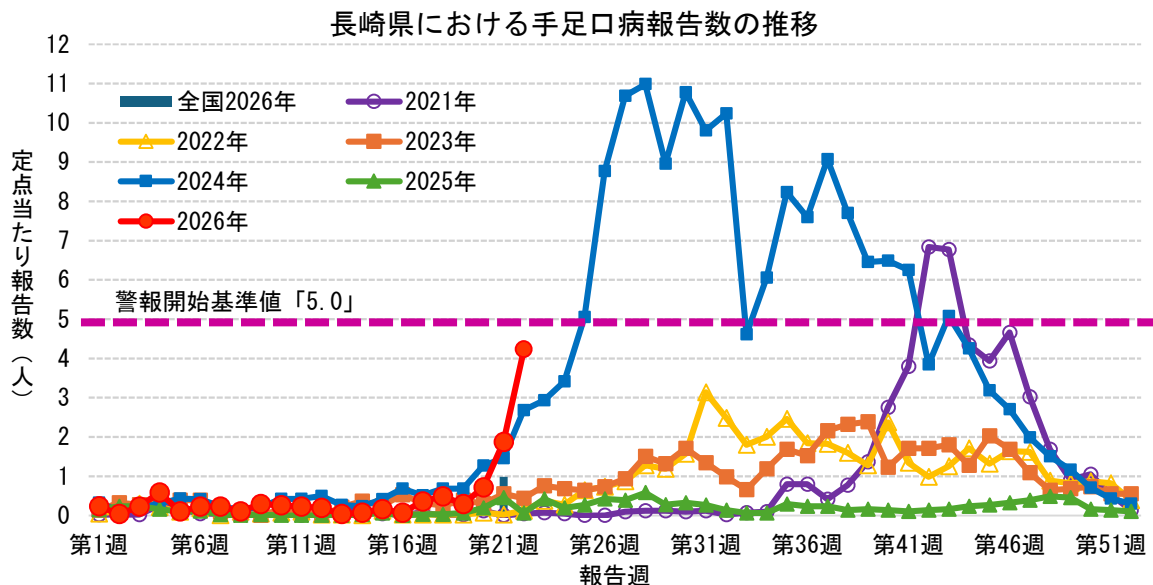
※()は第22週までの発生件数

☆トピックス：手足口病に注意しましょう

手足口病は、その名のとおり四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

例年6～7月に流行する傾向にあります。長崎県の第22週の定点当たり報告数は「4.23」で3週続けて増加しています。地区別では、佐世保地区（14.75）、長崎地区（6.83）、県北地区（5.00）が警報レベルの報告数となっています。今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名）
 無症状病原体保有者 女性（20代・1名、60代・1名）
 3類感染症：報告なし
 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 女性（60代・1名）
 日本紅斑熱 患者 女性（60代・1名、70代・1名）
 5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）
 梅毒 患者 男性（20代・1名、40代・2名）
 百日咳 患者 男性（10代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第17～22週、4/20～5/31)

疾患名	定点当たり患者数					
	17週	18週	19週	20週	21週	22週
	4/20～	4/27～	5/4～	5/11～	5/18～	5/25～
インフルエンザ	0.41	0.16	0.06	0.04		
新型コロナウイルス感染症	0.12	0.16	0.12	0.16	0.29	0.35
RSウイルス感染症	1.42	1.32	0.58	0.35	0.65	1.16
咽頭結膜熱	0.81	0.90	0.42	0.45	0.77	0.52
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.84	4.03	1.90	3.26	3.87	3.48
感染性胃腸炎	3.26	3.65	1.52	3.71	3.58	2.87
水痘	0.26	0.81	0.16	0.61	0.39	0.74
手足口病	0.35	0.48	0.29	0.71	1.87	4.23
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.23	0.23	0.06	0.13	0.06	
突発性発しん	0.42	0.29	0.06	0.48	0.23	0.32
ヘルパンギーナ		0.10		0.13	0.13	0.29
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.10	0.03	0.06	0.03	0.03
急性出血性結膜炎		0.13		0.25		0.25
流行性角結膜炎	1.38	0.63	1.13	0.63	1.75	0.13
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.08			0.33	0.08	0.25
クラミジア肺炎（おウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0.08				
急性呼吸器感染症（ARI）	56.53	60.20	36.65	47.22	47.29	46.33

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第22週、5/25～5/31) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ											
新型コロナウイルス感染症	0.35	0.14	0.45		0.20	0.38		2.33	0.33		
RSウイルス感染症	1.16	0.25			1.00	3.60	4.67				
咽頭結膜熱	0.52	0.50	0.33		0.67	0.20	1.67	2.00			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.48	9.00	1.83		4.33	3.60	7.67	1.00	1.00		1.50
感染性胃腸炎	2.87	3.50	3.17	4.00	4.67	4.00	0.33	4.50	2.00		
水痘	0.74	1.25	2.00			1.20					
手足口病	4.23	14.75	6.83		1.33	3.40		5.00			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.32	1.00			0.33	0.60		0.50	0.50		
ヘルパンギーナ	0.29	0.50	0.50			0.20	0.33	1.00			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03									0.50	
急性出血性結膜炎	0.25						2.00				
流行性角結膜炎	0.13		0.33								
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.25		0.33		2.00						
クラミジア肺炎（おウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	46.33	63.86	77.91	19.67	57.80	51.25	23.00	20.00	11.00	12.00	19.00